

教科名	音楽科	校 種	高等学校
-----	-----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など, 授業の形態
1 年	音楽	選	2	
2 年	音楽	選	2	
3 年	音楽	選	2	

科目名（教科名）		音楽Ⅰ（音楽科）			
担当教員		金沢智子			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。
2. 創感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
3. 日本の伝統文化について歴史的・文化的な理解を深め、国際交流に生かせる力を育む。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○表現・歌唱	・腹式呼吸の確立と視唱力の向上 ・声域の拡張と、曲種に応じた発声工夫
	○表現・合唱 (合唱コンクール)	・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上
2 学 期	○表現・創作 (ミュージカル)	・様々な表現形態による歌唱の特徴を活かした表現の工夫とアンサンブル
	○宗教音楽 (聖歌)	・聖歌や宗教音楽を通じて祈りの心を育む
	○表現・歌唱 (イタリア歌曲)	・原語の理解と、外国語科との連携による的確な発音の習得
3 学 期	○表現・歌唱 (ドイツリート)	・原語の理解と、外国語科との連携による的確な発音の修得
	○鑑賞	・楽曲の歴史的背景とともに行う代表的作曲家の作品鑑賞 ・生涯にわたって音楽（芸術）を愛好する心情の育成
	○表現・器楽（弦楽器） (ヴァイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバス)（箏）	・和洋弦楽器の基本奏法習得と、アンサンブル ・譜面の学習
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：80% 平常点：20%	
教科書・副教材等	●教科書：「新高校生の音楽1」音楽之友社 ●副教材：「コール・ユーブンゲン全曲版」教育芸術社 「聖歌集」	

科目名（教科名）		音楽Ⅱ（音楽科）			
担当教員		守田麻喜子			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2. 主体的な鑑賞能力を伸ばし、個性を生かした創造的な活動で、音楽の表現力を一層高める。
3. 日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○表現・歌唱 ○表現・合唱 （合唱コンクール）	・独唱・重唱における豊かな表現 ・発声のメカニズムを学び、腹式呼吸の修得と応用 ・声域の拡張・曲種に応じた発声の修得 ・歌詞の表す情景や心情、曲想を理解し豊かな表現の工夫 ・読譜力・視唱力の向上 ・混声合唱における豊かな和声感を追求し、楽曲の情景や背景の音楽的表現の工夫 ・旋律・ハーモニーを知覚し、伴奏楽器の役割を感じとり、協力し合いながらのアンサンブル
2 学 期	○表現・歌唱（イタリア語・ドイツ語 英語） ○器楽（邦楽：箏） ○宗教音楽（聖歌）	・原語の理解と個性豊かな自己表現の追求 ・邦楽の旋律・様々な演奏法や音色を学習し、重奏・合奏における豊かな表現に活かす ・和楽器による西洋音楽の演奏の工夫 ・我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、国際社会に生きる自覚の育成 ・聖歌・宗教音楽を通じ祈りの心を養う
3 学 期	○表現・創作・劇音楽 ○鑑賞	・総合芸術であるオペラより音楽と他の芸術との関わりを理解する ・劇の場面や情景による歌唱表現の工夫と探究心による表現 ・合奏・ミュージカルとしての発表 ・歴史的背景とともに、代表的作曲家の作品鑑賞
評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：80％ 平常点：20％	
教科書・ 副教材等	●教科書： 「新高校生の音楽2」音楽之友社 ●副教材： 「コール・ユーブンゲン全曲版」教育芸術社 「聖歌集」	

科目名（教科名）		音楽Ⅲ（音楽科）			
担当教員		金沢智子			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2. 個性豊かな表現能力と、高い表現技術を身につけ、主体的な鑑賞能力を伸ばす。
3. 日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○表現・歌唱 ○表現・合唱 (合唱コンクール)	・発声のメカニズムを学び、腹式呼吸の確立と応用 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫 ・声域の拡張・曲種に応じた発声の体感 ・表現内容を総合的に理解し、表現意図をもった創造的な歌唱 ・自主的な練習・発表による積極的な音楽表現の修得
2 学 期	○表現・独唱重唱等のアンサンブル (イタリア語・ドイツ語・英語など原 語での歌唱) ○器楽（鍵盤楽器・打楽器） ○鑑賞	・様々な表現形態による特徴を理解し表現上の効果を生かした歌唱 ・曲の構成及び曲想の把握と個性豊かな表現の工夫 ・器楽の奏法と、編曲などによる創造的な演奏技術の修得 ・曲の構成を理解し、自由な発想で表現するアンサンブル ・音楽と舞踏・演劇・美術など他の芸術や文化とのかかわりを理解する
3 学 期	○宗教音楽 (聖歌)	・聖歌・宗教音楽を通じて祈りの心を育て、社会における音楽（宗教音楽）の役割を考える
評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：80％ 平常点：20％	
教科書・ 副教材等	●教科書： 「新高校生の音楽3」音楽之友社 ●副教材： 「コール・ユーブンゲン全曲版」教育芸術社 「聖歌集」	

教科名	書道科	校 種	高等学校
-----	-----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など, 授業の形態
1 年	書道Ⅰ	選	2	
2 年	書道Ⅱ	選	2	
3 年	書道Ⅲ	選	2	

科目名（教科名）		書 道 I（書道）			
担 当 教 員		大林 千鶴			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授 業 の 目 的

1. 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心を育て、感性を豊かにする。
2. 書的能力を高め、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばす。
3. 個性を伸ばし、世界に向けたしなやかな美の心を育てる。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○はじめに ○漢字の書に親しもう ○硬筆	・書写から書道へ ・姿勢・執筆法 ・用具・用材 （文房四宝） ・書体の移り変わり ・楷書の古典 【初唐の三大家】 【日本の楷書】 ・ペン習字（万年筆） ・全国硬筆作品展覧会出品
2 学 期	○漢字の書に親しもう ○書き初め	・行書の古典 【蘭亭序】 【日本の行書】 ・篆書の古典 ・隸書の古典 ・草書の古典 ・漢字の書の鑑賞 学院祭書道展 外部書道展への出品と鑑賞 ・全国書きぞめ作品展覧会出品
3 学 期	○仮名の書に親しもう ○生活の中の書	・仮名の成立 ・仮名の基本線 ・平仮名…いろは歌 ・変体仮名 ・連綿 ・年賀状・挨拶文などの書き方・マナー
評価の方法と割合	●評価方法：作品制作点と平常点（硬筆帳・展覧会レポート等）により、各学期の成績を算出する。 ●割合：作品制作点80％・平常点20％	
教科書・副教材等	●教科書： 書 I（光村図書） ●副教材： ペン習字の基礎（教育図書）	

科目名（教科名）		書 道 II（書道）			
担 当 教 員		大林 千鶴			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授 業 の 目 的

1. 書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育て、感性を豊かにする。
2. 書の文化や伝統について理解を深め、表現と鑑賞の能力を伸ばす。
3. 書を愛好する心を育て、日本の文化に誇りを持たせる。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○書の美に親しもう ○漢字の書の美 ○硬筆	・書道Ⅰから書道Ⅱへ ・書の表現と鑑賞 ・篆書の表現 ・隷書の表現 ・草書の表現 ・行書の表現 ・楷書の表現 ・ペン習字（万年筆） ・全国硬筆作品展覧会出品
2 学 期	○仮名の書の美 ○書き初め	・仮名の書の表現 ・仮名の古典 ・散し書き ・創作 ・仮名の書の鑑賞 学院祭書道展・外部書道展への出品と鑑賞 ・全国書きぞめ作品展覧会出品
3 学 期	○漢字仮名交じりの書の美	・漢字仮名交じりの書の表現 ・古典を生かした創作 ・表札作成 ・年賀状・挨拶文などの書き方・マナー
評価の方法と割合	●評価方法：作品制作点と平常点（硬筆帳・展覧会レポート等）により、各学期の成績を算出する。 ●割合：作品制作点80％・平常点20％	
教科書・副教材等	●教科書： 書Ⅱ（光村図書） ●副教材： ペン字のころ1・2（日本書写教育研究会）	

科目名（教科名）		書 道 III（書道）			
担 当 教 員		大林 千鶴			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授 業 の 目 的

1. 書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と、書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。
2. 実用書の技術とマナーを身につける。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○多様な書の美 ○漢字書の美の多様性 ○硬筆	・書道Ⅱから書道Ⅲへ ・多様な書の表現と鑑賞 ・篆書での創作 ・隸書での創作 ・草書での創作 ・行書での創作 ・楷書での創作 ・全国硬筆作品展覧会出品
2 学 期	○仮名書の美の多様性 ○賞状揮毫	・仮名の発生から完成へ ・臨書から創作へ ・仮名の書の鑑賞 学院祭書道展・外部書道展出品と鑑賞 ・賞状の書式と文字
3 学 期	○生活の中の書	・実用書（万年筆・筆ペン）
評価の方法と割合	●評価方法：作品制作点と平常点（硬筆帳・展覧会レポート等）により、各学期の成績を算出する。 ●割合：作品制作点80％・平常点20％	
教科書・副教材等	●教科書： 書Ⅲ（光村図書） ●副教材： 洗心 一贈り物の表書き練習帳―（日本書写教育研究会）	

教科名	美術	校 種	高等学校
-----	----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
1 年	美術Ⅰ	選	2	
2 年	美術Ⅱ	選	2	
3 年	美術Ⅲ	選	2	

科目名（教科名）		美術 I （ 美術 ）			
担当教員		香月 敦			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授 業 の 目 的

1. 創作活動の楽しさ、喜びとは何かを体験・理解できるようにする。
2. 造形表現の基本的な考え方や技術を知る。
3. 独創的表現に向けて、イメージする心を育てる。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	美術とは？	・「HETA-UMA」（ヘタウマ）絵画を制作する。 「HETA-UMA」とはどのような概念なのかを理解し、「表現する」ということの本質を考え、その精神を作品作りに生かす。
	アニメーション	・「ゾートロープ」による12コマ（0.5秒間）のアニメーションを制作する。 コマ送りの表現の中で、どうすればスムーズにイメージが変容したり、相互に作用し合ったりするのかを探る。
2 学 期	立体デザイン	・「カラードフォルムによるオブジェ」を制作する。 正十二面体、正二十面体の展開図に透かし彫りを施し、幾何形体のフォルムの美しさを際立たせるオブジェを制作する。
	模倣と創造	・「コミックイラスト」を制作する。 自分の好きな作品の模写を通じて手描きイラストの技法を知る。 自分の模写を参考にしてオリジナル作品を作る。
3 学 期	彫刻の技法	・陶土塑像による土器を制作する。 縄文土器の表現的特徴やその精神性を知り、それを自らの作品に反映させる。単に工芸として土器を作るということではなく、「縄文の精神」そのものを彫塑することを目指す。
	<鑑賞>	・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
評価の方法	作品制作点80%と平常点（美術展等鑑賞のレポート、出欠等）20%により、各学期の成績を算出する。 ただし、作品提出なき場合は、作品制作点0点、併せて単位不認定とする。	
教科書・副教材等	<教科書> 高校美術 I （日本文教出版）	

科目名（教科名）	美術Ⅱ（美術）				
担当教員	八木 庸輔				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 油絵の技法や道具の扱い方について知り、西洋絵画の基本的な考え方について学ぶ。
2. 計画イメージに従って設計図を作り、構造的で美しい木工作品の制作に取り組む。
3. 長い時間をかけて1つの作品に取り組むことで、見通しや準備といった計画性を養えるようにする。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	描画材と表現	・近・中・遠景を意識した絵画を油絵で制作する。 - ヴァルルール、パースペクティヴといった西洋絵画の基礎的な考え方に基づき、空間感・奥行き感のある作品を目指す。最終的には、空間内に存在するモチーフを描き分けることで、その場に存在する「空気」を描くことを目指す。
2 学 期	機能とデザイン	・使う場所、用途にジャストフィットする木工棚を制作する。 - 計画にそって図面を引き、電動のこぎり、やすり、ボール盤、電動ドリルなどを使って製作する。完成作品は蜜蝋ワックスで仕上げ、使用の安全性を高める。
3 学 期	観察と表現	・油絵で人物の胸像を描く。 - 油絵の下塗りや質感を生かした描写を目指す。モデルの表面的な似顔絵に終始するのではなく、色彩でモデルを造形する意識を持って制作にあたる。
	<鑑賞>	・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
評価の方法	作品制作点80%と平常点（美術展等鑑賞のレポート、出欠等）20%により、各学期の成績を算出する。ただし、作品提出なき場合は、作品制作点0点、併せて単位不認定とする。	
教科書・副教材等	<教科書> 高校美術Ⅱ（日本文教出版）	

科目名（教科名）	美術Ⅲ（美術）				
担当教員	八木 庸輔				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 多様な要素を組み合わせた作品制作を行い、造形力を高める。
2. 日本伝統の工芸作品に興味と関心を持ち、その心を知る。
3. これまでに培った美術的感性・技術を自覚的に自分のものとするを目指す。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	版画家 山本容子	・「孔版画」を制作する。 - 孔版画による、画筆描写では表現できない画面を意識する。 - 孔版画特有のマチエール等を効果的に用いることによって、変化に富んだ作品を目指す。
2学期	染色家 吉岡幸雄 美術科 奈良美智	・日本の伝統技法や美意識によって生まれた、工芸の美を味わう。 - 陶土による「抹茶碗」を手びねりで制作する。成形後、乾燥を経て、素焼き、施釉、本焼きする。 ・自画像を制作する。 - 高校3年間で培った美術的感性・技術を総動員し、「現在の自分」を象徴的に表現する。
3学期	美術にかかわるということ <鑑賞>	・2学期に制作した抹茶碗で、茶会をし、1年を締めくくる。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
評価の方法	作品制作点80%と平常点（美術展等鑑賞のレポート、出欠等）20%により、各学期の成績を算出する。 ただし、作品提出なき場合は、作品制作点0点、併せて単位不認定とする。	
教科書・副教材等	<教科書> 高校美術Ⅲ（日本文教出版）	